

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月31日

事業所名 えいぶる本庄

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	86%	14%	0%	人数が多い時には活動によってゾーン分け、スケジュール調整をしているが、場合によっては制限された不満を感じる児童もいたりして対応している。	今年度よりゾーン分けを視覚的に確認しやすいようなマットの並べ方をしている。スケジュール調整をしているが、場合によっては制限された不満を感じる児童もいる様子。その時々でその場にふさわしい活動を提案し、不満が残らないよう工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%	定員数だけでなくその日の子どもたちの状況に応じて配置している。	基本的な支援業務には支障がない配置をしているが、個別対応までは目が行き届かないときもある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	43%	57%	トイレが活動スペースから離れているため、早めに対応できるようルールを設定している。	子どもたちの安全が確保できるようにすることを第一に考えている。想定できる危険性についてはあらかじめ伝えていたが、忘れてしまうこともあるため、可能な範囲で掲示したり再度伝えたりしていきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	43%	43%	14%	支援終了後のミーティングは毎日実施しており、その中で改善につながる意見が出ることも多い。	新年度から各種委員会の設置が義務付けられるため、それぞれの役割分担を通して、すべてのスタッフが業務改善に参加できるようにしていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	0%	今回は返送封筒を入れて、郵送での回答ができるようにした。	回答の割合はあまり変わらなかったが、いつもより率直なご意見をいただくことができた。アンケートのタイミングなどを調整して、来年度は回答割合を増やしていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	ホームページ上で公開している。	時々見たとのお声を頂戴することがある。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	14%	86%	実施できていない。	現状では正式な形では実施していない。ただ、子どもたちや関係者の方以外の視点も意識することは重要なので、防犯面も考えつつ、外部の目を入れる機会を作っていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	外部研修の復命のほかに、その時の状況に応じて必要な対応方法の資料などから学ぶこともある。	今年度はオンラインでの研修があったりしたため、普段参加できないメンバーでも参加しやすかったりした。委員会の設立も求められるようになるので、担当する分野ごとに責任をもって研修を実施できるようにしていきたい。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	86%	14%	0%	日常の記録に加え、保護者の方との面談の機会にご家庭の様子をうかがい、アセスメントにつなげている。	業務終了後のミーティングの際にスタッフ同士で意見交換を行っている。その際、保護者の方や学校の先生から聞き取った情報について周知することが多い。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	29%	57%	14%	特定のものというよりはさまざまなツールを参照している。	スタッフ間でも認識に違いがあるので、共通認識を育てるよう細かな申し送り、ミーティングを心がけていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	43%	28%	29%	帰りの会の際の認知トレーニングは帰りの会の担当スタッフが提案してやっている。個別のサポートに関してはミーティングの際に意見を出し合っている。	意見を出し合っているが、負担が特定のスタッフに偏ってしまったりすることがある。帰りの会の担当なども担当を時々変えたり、スタッフ全員で活動プログラムの見直しをしたりする時間を設けていきたい。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	43%	57%	0%	定番化することで安心する子もいるためバランスを考えていく必要がある。	スタッフから別の遊びを提案しているが、乗ってくれる時とそうでない時とある。その時々の様子を見ながら、バランス良い活動ができるようサポートしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	71%	29%	0%	おおまかなスケジュールはあるが、その時々によって柔軟に対応を変えている	平日は個別のスケジュールで動くことも多いが、休日や長期休暇中は、集団でのスケジュールで動くことに慣れるという目標で動いている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	57%	43%	0%	個別活動、集団活動それぞれにおいてサポートすべきところを明記するようにしている。	個別の計画を立てているが、その時々によって子どもの状態も変わるため、活動もそれに応じて変更している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	57%	43%	0%	前日にある程度役割を決めておき、当日状況をみながらその都度調整をしている。	送迎担当はあらかじめ決めているが、その他の役割はその都度決定し、柔軟に対応している。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%	支援記録を書く際に他のスタッフの観察した内容を参考にしている。様々な視点からその子をアセスメントできるようにしている。	支援終了後にはその日の子どもたちの様子や、送迎時の伝達事項などを共有している。翌日のおおまかなスケジュールを確認し、次の業務に備えている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	連絡帳を書く段階では分からない事実があとから出てきたりするので、送迎時に聞いたり場合によっては個別で電話したりして正しい記録をとれるよう心がけている。	加算の関係する記録に関して、スタッフによって意識の差が見られるため、正確な記録の必要性に関して定期的に注意喚起を行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	57%	43%	0%	年に二回実施している。	直接支援スタッフが書いた支援記録を参考に実施していたが、それだけでなく、モニタリング作成時点でも意見を聴くなどして積極的に色々なスタッフにかかわってもらう必要がある。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	29%	71%	0%	基本活動を組み合わせさせた支援を実施している。	今年度はガイドラインに関する研修を実施できていなかった。来年度は研修を行い、改めて活動プログラムの立案のあり方など検討していきたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%	0%	日期的に自発管が参加することが多くなっている。	今年度は電話でのやり取りが多く、あまり機会がなかったが、また担当者会議ができるようになったら、児童指導員などにも参加するようにしてもらいたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	86%	14%	0%	送迎時に学校での様子をお聞きしている。宿題のことなどこちらから電話して教えていただくことも多い。	基本的には保護者様を通して連絡調整を行う学校が多い。連絡先を教えて下さる先生もいらっしゃるの、こちらでの様子も伝えて、密な連携をはかっていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	86%	14%	実施事例なし	現在は症状が無くても既往があったり経過観察中の子どももいるため、可能な範囲で実施していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	14%	86%	0%	実施事例なし。保護者を通して情報を頂いている。	相談支援事業所から情報を頂くこともあるが、それ以外の機関とはなかなか連携がとれていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	71%	29%	実施事例なし。	特別支援学校に進学する児童もいるので、今後機会があれば除法提供をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43%	43%	14%	日程の調整が可能であれば研修に参加している。	なかなかスタッフ全員には研修の機会がないため、参加したスタッフからより積極的な仕方でも情報を伝えていく必要がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	43%	29%	28%	けん玉サークルの子どもたちとの交流があっている。	学校の送迎時や地元の公園などに行ったときに話したり遊んだりすることはあるが、きちんとした形での交流はあまり出ていない。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	43%	57%	0%	参加できていない。	研修や会合の連絡は来ているが、日程が合わず参加できていない。機会があれば参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	71%	29%	0%	連絡帳や送迎時にお伝えしている。Instagramなどでも紹介している。	Instagramは個人情報保護のため載せられる情報が限られているので、個別で写真を渡したりなどして、普段の様子を知っていただける機会を増やしていきたい。

29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	14%	14%	72%	アドバイスを求められて、普段のその子の様子からこうしてはどうかと提案することはある。	研修などは行えていないが、一般的な形での教育に役立つ資料などを積極的に紹介していきたい。
----	---	-----	-----	-----	--	--

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	14%	0%	契約時や変更時に口頭や文書で説明を行っている。追加でお知らせすることもある。	契約時にはあまり疑問に感じられていなくても後から分からない点が出てこられる場合もあるため、いつでも質問しやすいような関係づくりに努めていく必要がある。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	送迎時や電話などで相談を受けている。状況に応じて、学校などの関係機関との話し合いに参加することもある。	具体的な助言をするというよりも、事業所のスタッフ側から見た客観的な意見を伝えることが多い。長期休みの時に面談を設けているが、なかなか都合がつかない方もいらっしゃるので、保護者の方のご都合に合わせて話をする時間を設けていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	14%	86%	実施できていない。	コロナが落ち着いたら、保護者参加型のイベントを企画し、保護者同士の連携を強める機会を作っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	86%	14%	0%	早めの連絡調整を心がけている。	苦情の処理体制については契約時に保護者に周知している。苦情に至りかねないトラブルが生じた場合にはできる限り早めに関係者と連絡調整を行い、問題が大きくならないよう心がけている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	86%	14%	0%	Instagramやブログなどで日頃の活動の様子をお伝えしている。	災害時や感染症の対策など、業務管理体制についても分かりやすい形で提示していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	29%	71%	0%	Instagramを開始するにあたり、再度個人情報や写真・画像の使用に関してアンケート調査を実施した。	保護者アンケートで、連絡帳の記載やプリントの扱いなどについてご意見をいただいた。連絡帳に別の子の氏名を書く際には原則イニシャル、あるいは仮名で書くこと、何であれ個人名や個人が特定できる情報が書かれているものが備品に紛れ込まないよう管理を徹底することをスタッフに周知している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	できるだけそれぞれが理解できるような形で伝えるよう工夫している。	連絡帳などで基本的にはやりとりするが、それぞれ理解が異なる場合があるので、電話や送迎時にお会いした時に補足で説明したり、話し合いをしたりして、共通認識を持てるように努めている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29%	0%	71%	避難訓練の際など地元の公民館に行くようにしている。	コロナ禍でなかなか地元イベントに行くのも、人に来ていただくのも難しい場合が多い。状況が落ち着いたら、地域のかたにも内覧会のような形でご覧いただけるようにしていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	57%	43%	0%	マニュアルは策定している。	策定したことを保護者や子どもたちに周知する点で不十分なところがあったので、来年度の課題としていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	長期休みの時などに実施している。地震、洪水、水害想定の実施している。	避難訓練の際にスタッフがどう動くのかなど役割分担が把握できていない部分がある。その点も踏まえて実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	外部での研修を復命する形で実施している。	風通しのよい職場、お互いにフラットに意見を言い合える環境作りに励んでいきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	29%	57%	14%	実際計画に記載する段階にまでいたったことがない。	突発的に動きを制限したりすることはあり、その場での判断という形になるので、組織的な決定はできていない。何が身体拘束に当たるのか判断が難しいときもあるため、県などに確認しながらスタッフの知識も増やしていく必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	43%	57%	0%	初回アセスメントの際保護者より情報を頂いている。診断が新たにおりた場合にもご報告いただいている。	食物アレルギー以外にもハウスダストであったり別の形でのアレルギーを持っているケースもあるので、注意して情報を得ていきたい。

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	86%	14%	0%	県の事故報告の様式に則って記入している。業務日誌にも記載する。	業務日誌を確認し忘れることもあるので、重要な事案に関しては別の機会にも周知を図っていく必要がある。
----	---------------------------	-----	-----	----	---------------------------------	---

